

Honda車をお買いあげいただきありがとうございます。

安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみください。

お車の引き渡しについて

★お買いあげになりましたら、Honda販売店にてこの取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記の説明を受けてください。

- お車の正しい取扱いかた
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

排出ガス規制について

★この車は排出ガス規制適合車です。

GIORNO Crea (BA-AF54 型):

GIORNO Crea DX (BA-AF54 型):

平成10年排出ガス規制適合車

運転免許について

★この車を一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか、確認してください。
この車は、第1種原動機付自転車です。

★この車の乗車定員は、運転者のみの1人です。

お車について

★この車は、連動ブレーキシステムを装備しています。
詳細については、15 ページを参照ください。

〈GIORNO Crea DX〉

この車は、アイドルストップ・システムを装備しています。
詳細については、25 ページを参照ください。

★この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

「安全に関する表示」「安全運転のために」「メンテナンスを安全に行うために」は重要ですので、しっかりお読みください。

★車の取扱いを十分にご存じの方も、この車独自の装備や取扱いがありますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

また、メンテナンスノートもぜひお読みください。

★車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

★車の仕様、その他の変更により、この本の内容と実車が一致しない場合があります。ご了承ください。

★安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

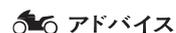


指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

★その他の表示



お車のために守っていただきたいこと



知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

安全運転のために	4
各部の名称	10
メータの見かた、使いかた	13
計器類	13
警告灯・表示灯	13
連動ブレーキシステム	15
スイッチの使いかた	15
メインスイッチ	15
スタータスイッチ	16
アイドルストップモード切換えスイッチ	
〈GIORNO Crea DX〉	16
前照灯(ヘッドライト)上下切換えスイッチ	17
方向指示器スイッチ	17
ホーンスイッチ	17
装備の使いかた	18
ハンドルロック	18
コンビニエンスフック	18
シートロック・ヘルメットホルダ	19
トランク	20
書類入れ	21
メインスタンドロック	21
ブレーキロックレバー	22
燃料の補給	23
燃料の補給	23

アイドルストップ・システム	
〈GIORNO Crea DX〉	25
アイドルストップ・システムとは	25
アイドルストップ・システムが作動する条件	25
安全のために	26
正しい運転操作	27
エンジンのかけかた	27
スタートするとき	30
正しい走りかた	31
アイドルストップ・システムが作動しているとき	
〈GIORNO Crea DX〉	33
止まりかた	34

メンテナンスを安全に行うために	36
日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	38
日常点検	40
定期点検	42
簡単なメンテナンス	44
ブレーキ	44
タイヤ	46
エンジンオイル	48
冷却水	50
ファイナルリダクション	52
バッテリー	53
ヒューズ	55
エアクリーナ	56
ケーブル類のラバーブーツ	57
ブリーザドレン	57

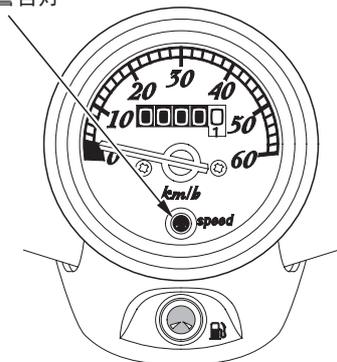
車のお手入れ	59
保管のしかた	59
地球環境の保護について	60
色物部品をご注文のとき	60
マフラの純正マークについて	60
フレーム号機	61
オーバーヒートしたとき	61
エンジンが始動しないとき	61
アイドルストップ・システムが作動しないとき 〈GIORNO Crea DX〉	62
主要諸元	66
サービスデータ	67
さくいん	68

心のゆとりと正しい服装が安全運転のキメ手です。
道路交通法を守り、あせらずにゆとりを持って落ち着いた運転を心がけましょう。

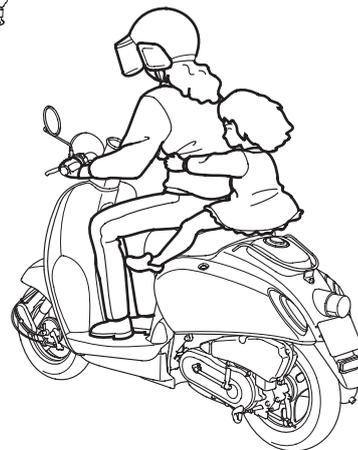
ここであげた項目は、日常この車を取扱う上で必要な基本的なものです。これらの項目をいつもお守りいただき、安全運転を心がけてください。

- スピードメータ部に速度警告灯が装備されています。
車の速度が法定最高速度(30 km/h)を越えると速度警告灯が点滅し運転者に注意をうながします。

速度警告灯

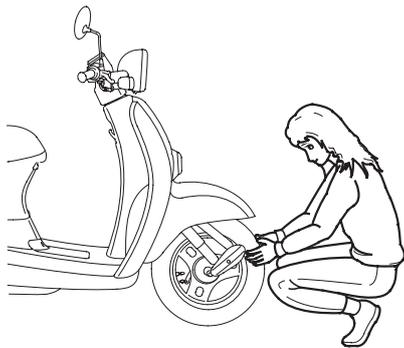


- この車は1人乗りです。2人乗りはできません。
ご注意ください。



運転する前に

- 日常点検を行ってください。
車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。
日常点検は、40 ページ参照。
- 定期点検を実施してください。
定期点検は、42 ページ参照。



- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



服装

- 運転者は、必ずヘルメットを着用してください。これは、法令でも定められています。ヘルメットの着用は、あごひもを確実に締めるなど、正しく行ってください。ヘルメットは二輪車でCS、SGマークかJISマークのあるものをお勧めします。頭にしっかり合って圧迫感のないものを選びください。
- 保護具や保護性の高い服を着用してください。
 - ・ フェイスシールドまたはゴーグルの使用
 - ・ くるぶしまで覆う靴の着用
 - ・ 摩擦に強い皮製の手袋の着用
 - ・ 長ズボンと長袖のジャケットの着用
 - － 明るく目立つ色の動きやすい服装で体の露出の少ないものを着用してください。
 - － すその広いズボンや袖口の広いジャケットは、ブレーキ操作などの運転動作のじゃまになり思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。



乗りかた

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をフロアに置いてください。



- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。
これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



<GIORNO Crea DX>

- アイドルストップ・システムの詳細については、25 ページを参照してください。

荷物

荷物を積むと、積まないときに比べてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積みすぎると、ハンドルがふられ運転を誤ることがありますので、積みすぎに注意しましょう。

- 荷物の積載は下記重量までです。



コンビニエンスフック： 1.5 kg

トランク： 10.0 kg

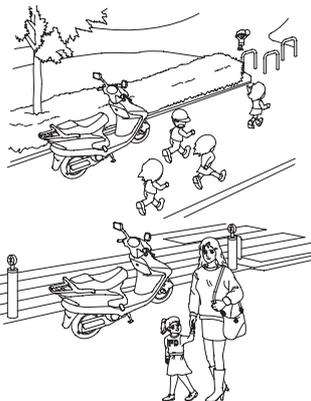
- ヘッドライトレンズの前を荷物等でさえぎらないでください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
- コンビニフックには、車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。
- レンガや鉄片等、固くて重いものをトランクに入れたまま走行しないでください。積載重量以内でもトランク本体が損傷する場合があります。
- ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作ができなくなる場合があります。物を置かないでください。
- 荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。

改造

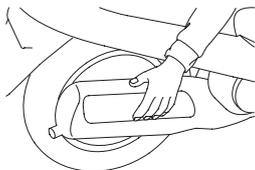
- 車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。このような改造に起因する場合は、保証が受けられません。
- この車は平成10年排出ガス規制適合車です。排出ガス濃度を劣化させるような不正改造は行わないでください。

駐車

- 水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラなどが熱くなっています。他の方が触れることのない場所に駐車しましょう。



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。

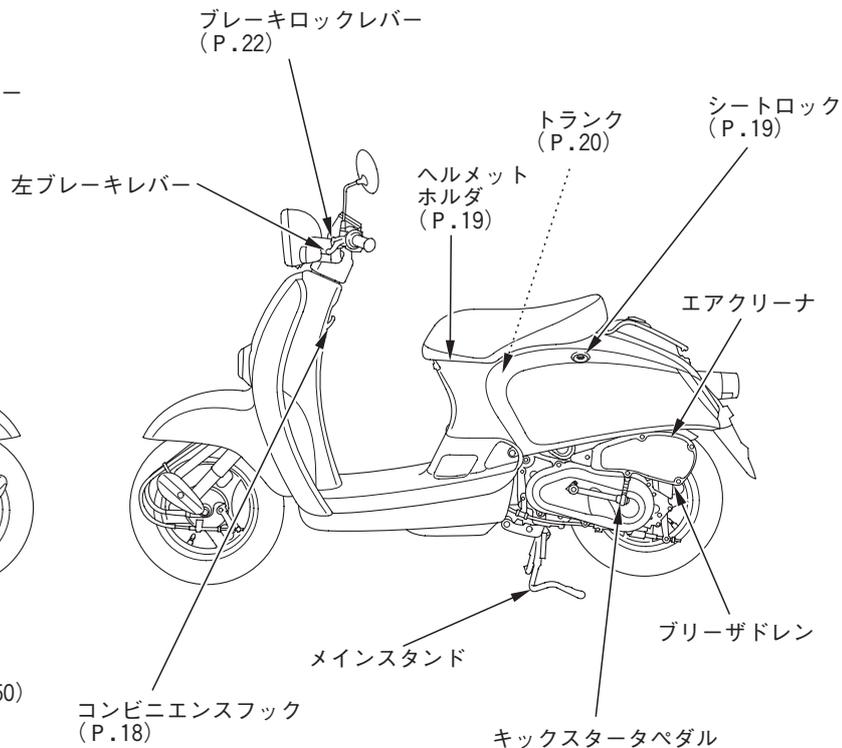
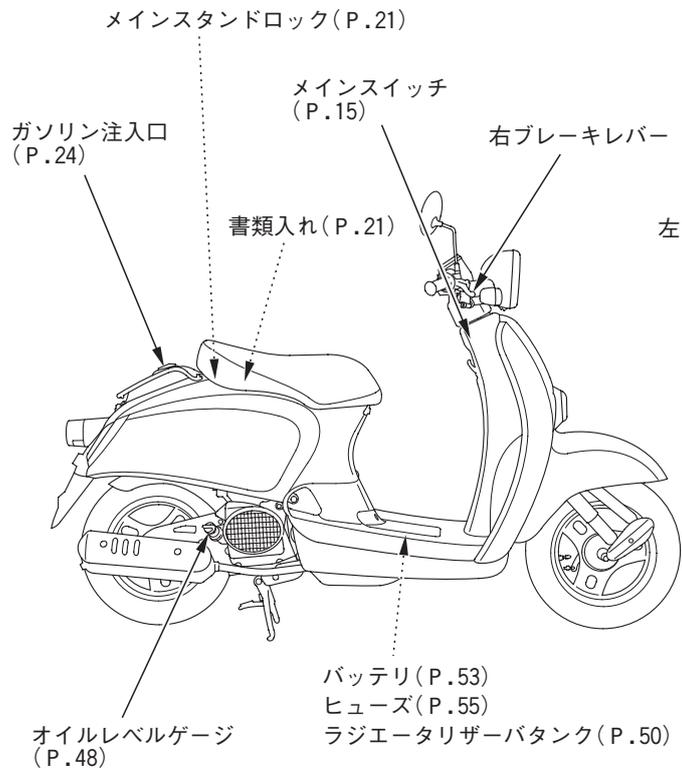


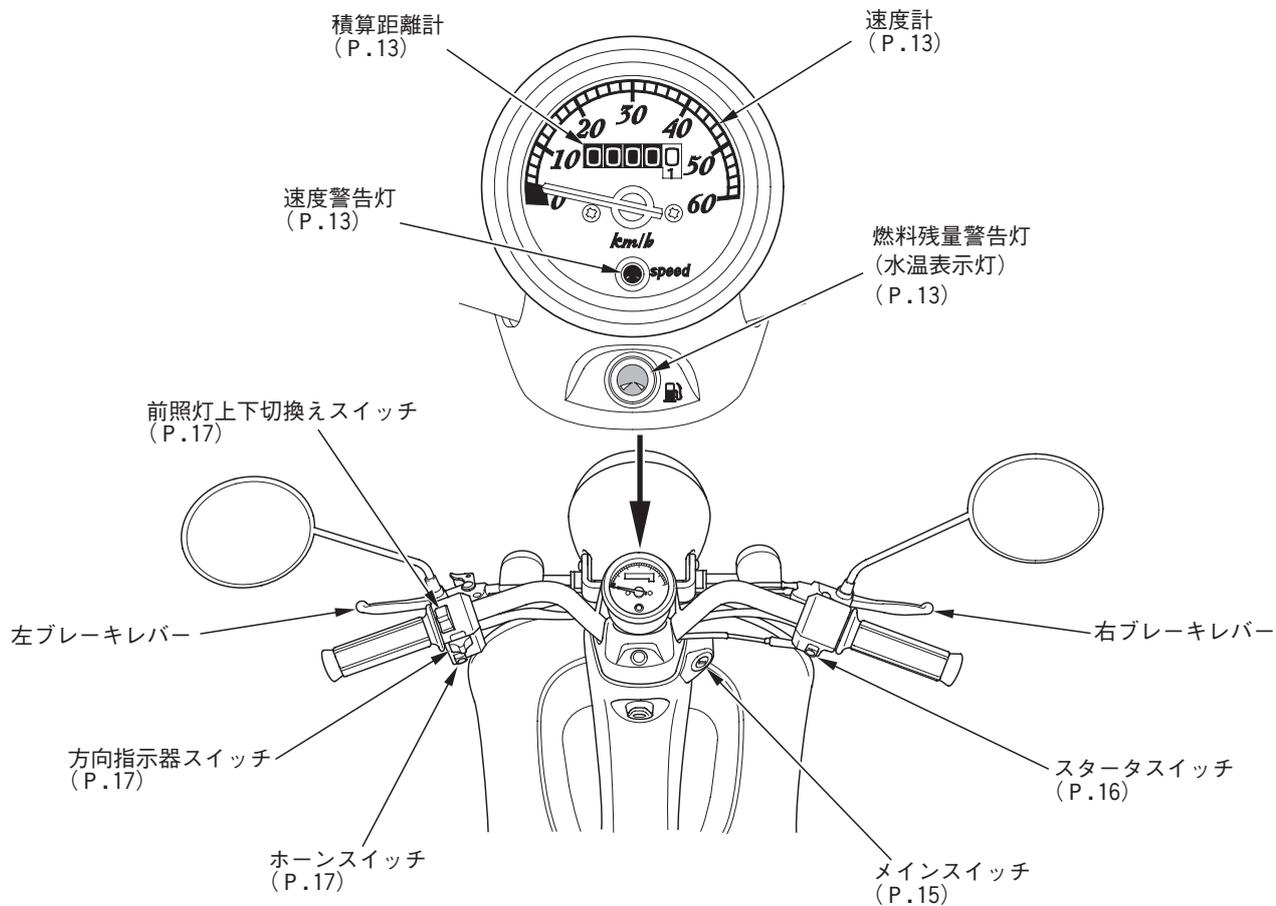
⚠️ 注意

マフラ、エンジンなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。このとき、マフラ、エンジンなどに触れるとヤケドを負う可能性があります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の方がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

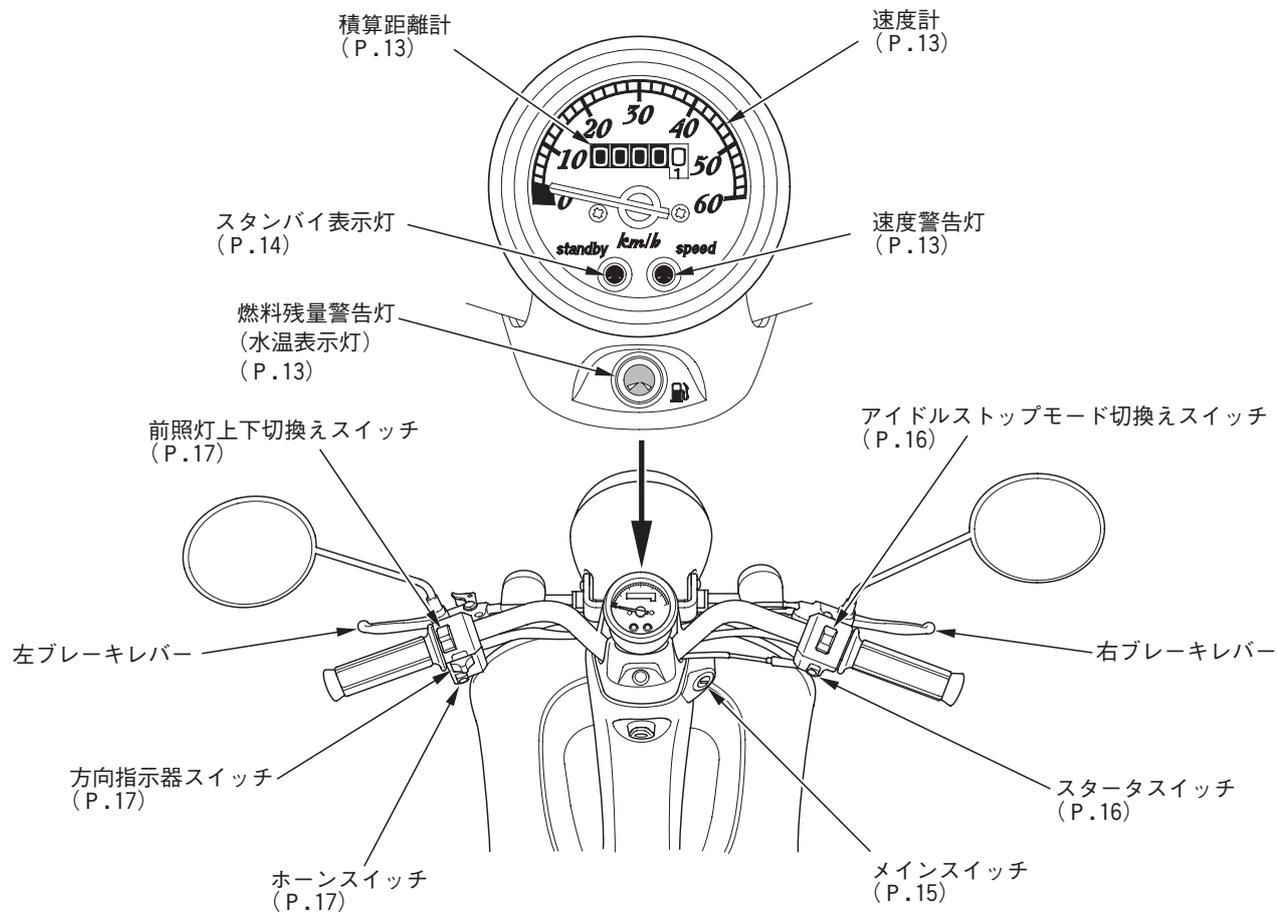
各部の名称





< GIORNO Crea >

各部の名称

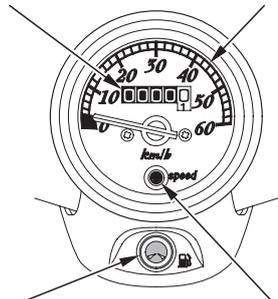


〈 GIORNO Crea DX 〉

メータの見かた、使いかた

積算距離計
(オドメータ)

速度計
(スピードメータ)



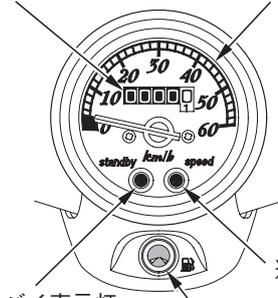
燃料残量警告灯
(水温表示灯)

速度警告灯

〈 GIORNO Crea 〉

積算距離計
(オドメータ)

速度計
(スピードメータ)



スタンバイ表示灯

燃料残量警告灯
(水温表示灯)

速度警告灯

〈 GIORNO Crea DX 〉

計器類

速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。

白地に黒数字は100mの単位です。

4桁目(1,000kmの位)の1と6は橙色地に白数字で表示します。

橙色に変わったときがエンジンオイル交換の目安です。

(エンジンオイル交換については、49ページを参照)

橙色

積算距離計
(オドメータ)



警告灯・表示灯

速度警告灯

速度が30km/hを越えると、点滅します。

燃料残量警告灯

(水温表示灯)

燃料残量警告灯は水温表示灯を兼ねています。

点灯は燃料残量警告、点滅はエンジン冷却水の温度が規定以上であることを示します。

(詳細は次ページ参照)

知識

- 燃料残量警告と水温表示が同時に発生した場合は水温表示を優先して表示します。
- 燃料残量警告灯(水温表示灯)は、メインスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。

燃料残量警告表示

燃料タンク内のガソリンが少なくなると点灯します。燃料残量警告灯が点灯したときは、早めにガソリンを補給してください。

燃料残量警告灯が点灯したときの

燃料有効残量：約 1.0ℓ

水温表示

メインスイッチが“ON”のとき、エンジン冷却水の温度が規定以上になると、点滅します。エンジン回転中に点滅した場合、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車してください。
処置手順は 61 ページ参照。

知識

- 燃料残量警告灯(水温表示灯)が点滅すると同時に車の速度を制限します。

スタンバイ表示灯

〈GIORNO Crea DX〉

アイドルストップ・システムの作動によりアイドルストップ(エンジンが停止)しているときに点滅します。

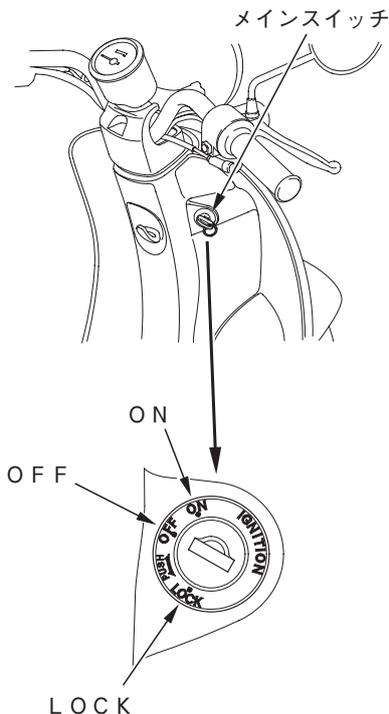
アイドルストップ・システムの詳細については、25 ページを参照してください。

連動ブレーキシステム

- 左ブレーキレバーを操作すると後輪ブレーキが作動するとともに前輪ブレーキが作動します。
- 右ブレーキレバーを操作すると前輪ブレーキが作動します。

ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使いましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

メインスイッチ



LOCK ……ハンドルがロックされます。
キーの差し抜きができます。

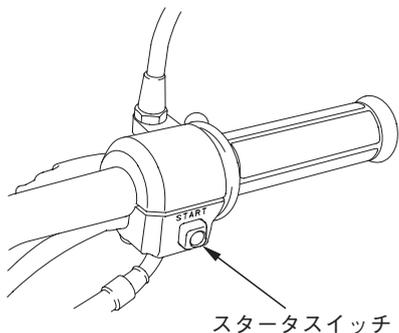
OFF ……エンジン停止位置です。
キーの差し抜きができます。

ON ……エンジンがかかります。
キーは抜けません。
前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。

 知識

- この車はメインスイッチを“ON”にすると前照灯(ヘッドライト)が常時点灯します。エンジンをかけずに“ON”の状態にしておくと、バッテリーあがりの原因となります。

スタータスイッチ



メインスイッチのキーを“ON”にしてブレーキレバーを握り、スイッチを押すとエンジンがかかります。

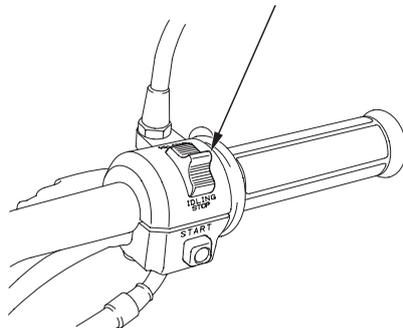
知識

- ブレーキをかけた状態でないとエンジンはかかりません。

アイドルストップモード 切換えスイッチ

〈GIORNO Crea DX〉

アイドルストップモード切換えスイッチ



アイドルストップ・システムの作動および解除を行います。

IDLING STOP

… アイドルストップ・システム作動

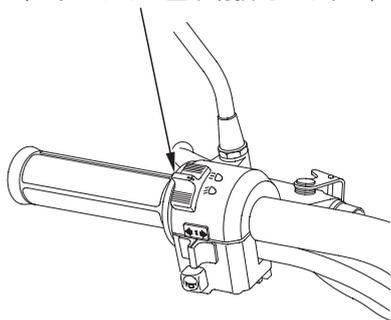
IDLING

… アイドルストップ・システム解除

(アイドルストップモード切換えスイッチについての詳細は、25 ページ参照)

前照灯上下切換えスイッチ (ヘッドライト上下切換えスイッチ)

前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)



(上向き)

☞ … 遠くを照らしたい場合に使用します。

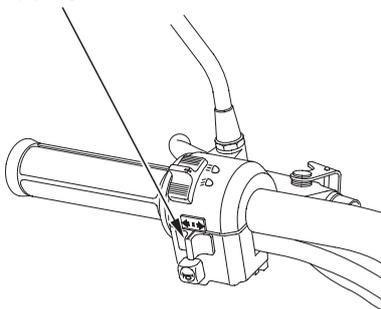
(下向き)

☞ … 対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適当なときは、下向きにしてください。

昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチ



メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

☞ … 右に曲がる時に操作します。

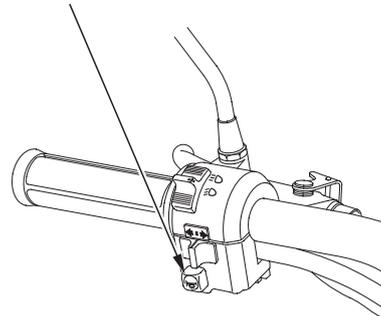
☞ … 左に曲がる時に操作します。

知識

- 方向指示器スイッチは、自動的に解除しません。使用後は、必ず解除してください。つけたままにしておくと他の方に迷惑となります。

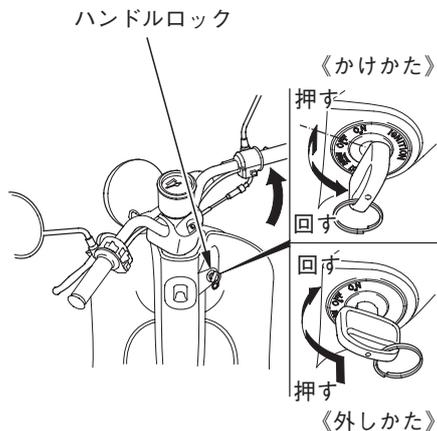
ホーンスイッチ

ホーンスイッチ



メインスイッチが“ON”のとき、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

ハンドルロック



盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

ハンドルを左にいっぱいにきります。
メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、“OFF”から“LOCK”の位置まで回します。
ロックがかかりにくい場合は、多少ハンドルを左右に動かしてください。

《外しかた》

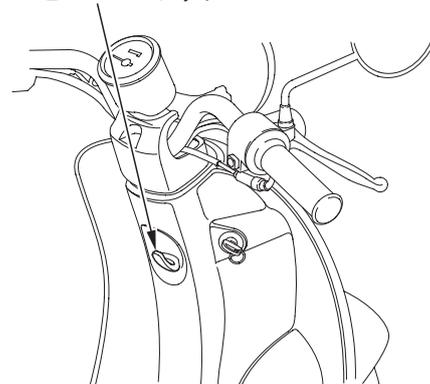
メインスイッチのキーをいっぱいまで押し込み、“LOCK”から“OFF”に回すとロックが解除されます。

知 識

- “LOCK”の位置で、ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを左右に軽く動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

コンビニエンスフック

コンビニエンスフック



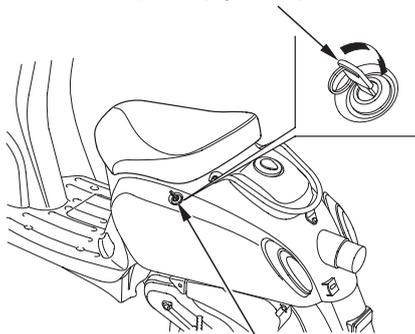
ハンドル下方にコンビニエンスフックがあります。

コンビニエンスフックの
最大荷物重さ：1.5 kg

コンビニフックには、車体からはみ出したり、足に当たるような大きな荷物はかけないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすことがあります。

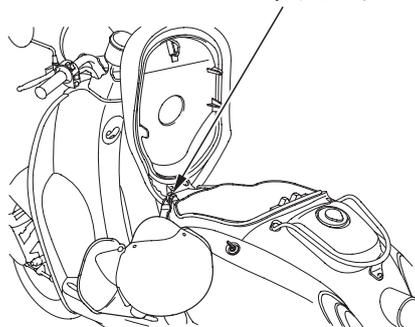
シートロック・ ヘルメットホルダ

メインスイッチのキー



シートロック

ヘルメットホルダ



ヘルメットホルダは、駐車時のみに使用する
ものです。

走行時に使用すると、ヘルメットが運転を妨
げたり、車体に損傷を与えることがあります。
また、ヘルメットに損傷を与え保護機能を低
下させます。

《かけかた》

1. メインスイッチのキーを右に回してシー
ト後部下のシートロックを外し、シート
を開けます。
2. ヘルメットのあごひもの金具をヘルメッ
トホルダにかけます。
3. シートをおろし、シート後部を上から押
してロックします。シートをもち上げ、ロ
ックがかかったかを確認します。

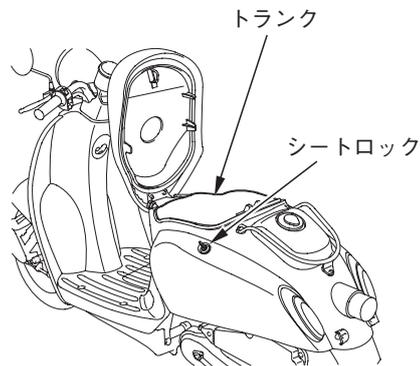
《外しかた》

- メインスイッチのキーでシートを開けて、
ヘルメットを取外します。

知識

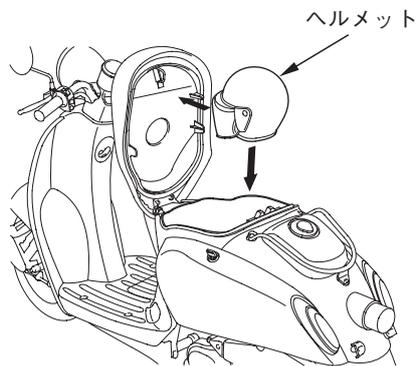
- キーをトランク内に置き忘れた状態で
シートを下げると、自動的にロックさ
れ、キーを取出すことができなくな
りますのでご注意ください。

トランク



シートの下にトランクがあります。
トランクへの最大荷物重さ：10.0 kg

- シートは、メインスイッチのキーでシートロックを解除して開けます。
(19 ページ参照)
- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。

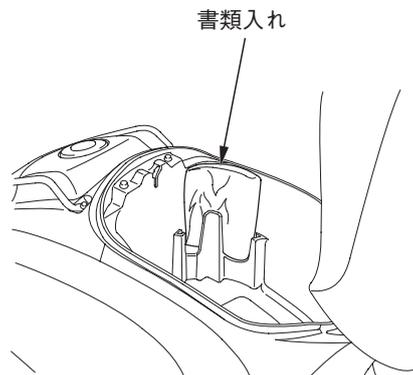


- トランク内にヘルメットを収納する場合は、ヘルメットの前側をトランク前方に向けて収納してください。

知識

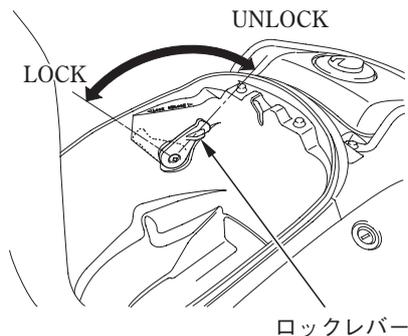
- トランク内はエンジンの熱で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。
- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。
- トランク内にはヘルメット種類や形状、大きさなどにより、一部収納できない場合があります。

書類入れ



トランク内に書類入れがあります。
取扱説明書やメンテナンスノートなどは、ビニール袋に入れ、ここに格納してください。

メインスタンドロック



メインスタンドを立てた状態で使用します。

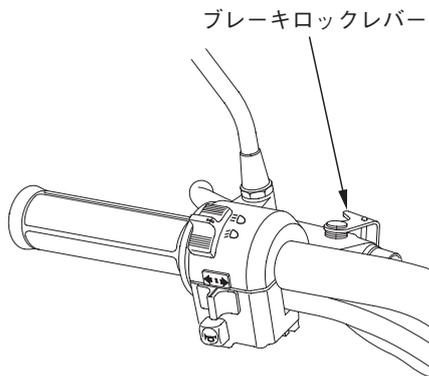
《かけかた》

1. メインスタンドを立て(35 ページ参照)、シートを開けます。ロックレバーを“LOCK”の位置にします。
2. シートを閉め、完全にシートロックがかかったか確かめてください。

《外しかた》

- ロックレバーを“LOCK”から“UNLOCK”の位置にするとロックが解除されます。

ブレーキロックレバー

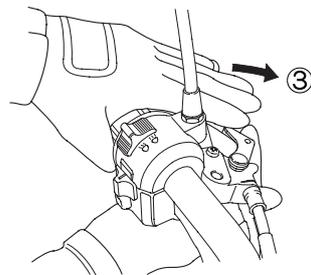
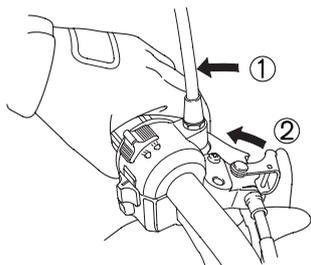


知識

- 後輪ブレーキの調整が正しく行われていないとロックできません。後輪ブレーキの調整は、44 ページ参照してください。

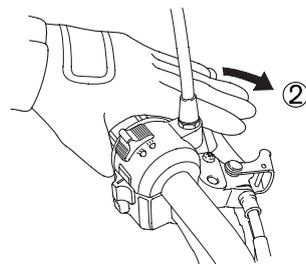
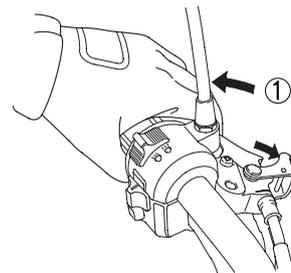
《かけかた》

1. 左ブレーキレバーを強く握ります。
2. ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かして左ブレーキレバーにセットします。ブレーキロックレバーをセットしたまま
3. 左ブレーキレバーを放せば、後輪はロックします。



《外しかた》

1. 左ブレーキレバーを強く握ると、自動的にロックレバーが外れます。
2. 左ブレーキレバーから手を放せば、後輪のロックは外れます。



燃料の補給

《使用燃料》

無鉛レギュラーガソリン

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
- 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。

警告

ガソリンは、燃えやすくヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

ガソリンを取扱う場合は、

- エンジンを止めてください。また、裸火、火花、熱源などの火元を遠ざけてください。
- 燃料補給は、必ず屋外で行ってください。
- こぼれたガソリンは、すぐに拭き取ってください。

身体に帯電した静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火し、ヤケドを負う可能性があります。

ガソリンを補給するときは、

- 燃料タンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。
- 給油作業は静電気を除去した人のみで行なってください。

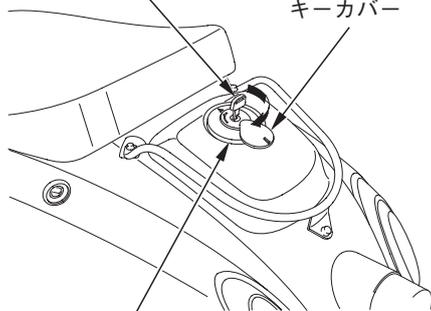
《補給のしかた》

1. キーカバーを開け、メインスイッチのキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開けます。
2. ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。
ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると、燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。

メインスイッチのキー

キーカバー

燃料タンクキャップ



3. 燃料タンクキャップの凸部と燃料タンクの凹部を合わせ、キャップを手で確実に押し付けて取付けます。
4. メインスイッチのキーを抜き、キーカバーを閉じます。

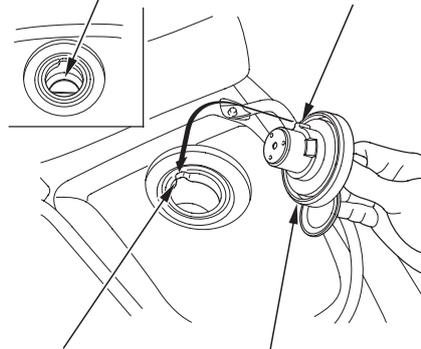
燃料タンクキャップがロックされないとメインスイッチのキーは抜けません。

レベルプレート

凸部

凹部

燃料タンクキャップ



アイドルストップ・システムとは

アイドルストップ・システムは、信号待ち等の停車時にアイドルストップ(エンジンを停止)することで燃料消費の低減、排出ガスおよび騒音の抑制を目的としたものです。

- スロットルグリップを戻し、車が停止するとアイドルストップします。
- スタンバイ表示灯の点滅により、アイドルストップ状態であることを知らせます。
- スロットルグリップを回すことにより、エンジンが再始動します。

アイドルストップモード切換えスイッチにより、停止してもアイドルストップしない状態にもできます。
(スイッチの操作は、16 ページ参照)

アイドルストップ・システムが作動する条件

アイドルストップ・システムが作動するためには、いくつかの条件が必要です。次の項目を守り正しくお使いください。

1. 走行する前に

- エンジンの暖機を行ってください。
エンジンが冷えた状態ではアイドルストップ・システムは作動しません。
- アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にしてください。
- 正しい姿勢で乗車してください。
シートに荷重がかかっていないと作動しない構造になっています。

上記の状態で行(車速 10 km/h 以上)するとアイドルストップ・システムが作動します。

2. 停車したとき

- スロットルグリップを全部、戻してください。
スロットルグリップを回しているとアイドルストップしません。

- 車を完全に停止してください。
速度が 0 km/h にならないとアイドルストップしません。

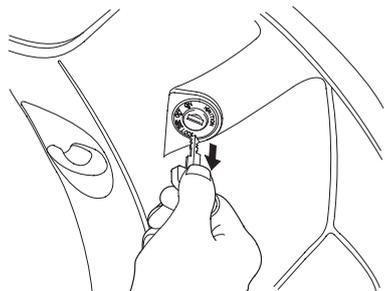
3. エンジンを再始動させるとき

- スタンバイ表示灯の点滅を確認してください。
スタンバイ表示灯が点滅していないとスロットルグリップを回しても、エンジンは再始動しません。
- アイドルストップ状態で約 3 分以上、着座していないとアイドルストップ・システムが解除され、スタンバイ表示灯およびヘッドライトが消灯します。
- スタンバイ表示灯が点滅していない状態で再始動するときは、ブレーキレバーを握り、スタータスイッチを押してください。
(エンジンの始動は、27 ページ参照)

安全運転のために

アイドルストップ・システムを安全に使用するために次の項目をお守りください。

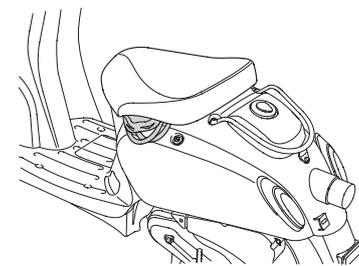
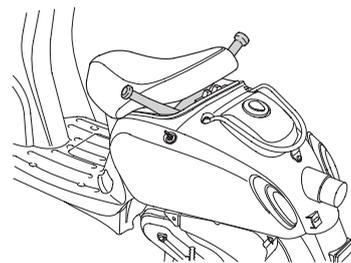
- アイドルストップ・システムが作動している状態で車から離れないでください。車から離れるときは必ず、キーを抜いてください。



- アイドルストップ・システムが作動しているとき、手や体をシートに押し付けたり、シートの上に荷物を載せるなど、乗車以外でシートに荷重をかけないでください。乗車以外でも、シートに荷重がかかった状態でスロットルグリップが回ると、エンジンが再始動します。



- シートロックができない、またはロックがしづらいようなトランクへの荷物等の積載はしないでください。また、シートとトランクの間に荷物等を挟まないでください。



エンジンのかけかた

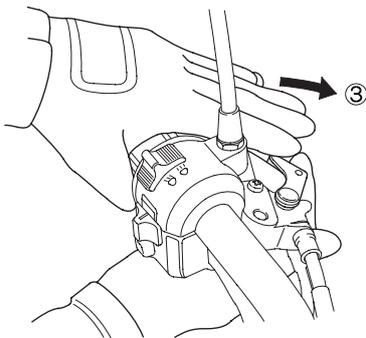
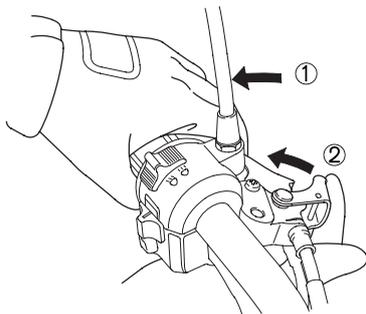
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。

エンジン始動は、27 - 29 ページの「始動手順」に従って行ってください。

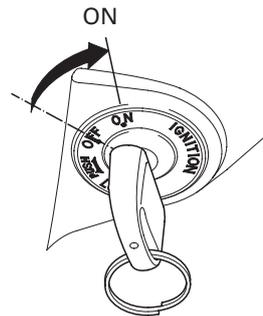
- エンジンをかける前に、オイル、ガソリン、冷却水などの点検をしましたか。必ず点検を行ってください。
(日常点検は、40ページ参照)
- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを立ててください。
- また、メインスタンドロックのロックレバーが“UNLOCK”の位置になっている事を確認してください。
- 急な飛び出しを防ぐために始動時は、必ずブレーキロックレバーをかけ、後輪をロックしてください。
後輪ブレーキの調整が正しく行われていないとロックできません。
(後輪ブレーキの調整は、44ページ参照)

《始動手順》

①ブレーキロックレバーをかけ、後輪をロックします。(22 ページ参照)

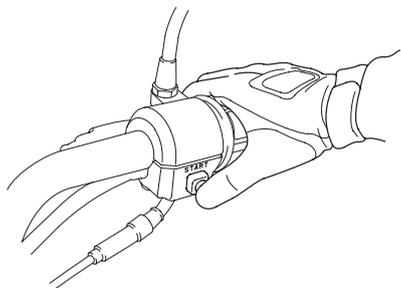


②メインスイッチを“ON”にします。



- ③スロットルグリップを回さずに、スタートスイッチを押します。

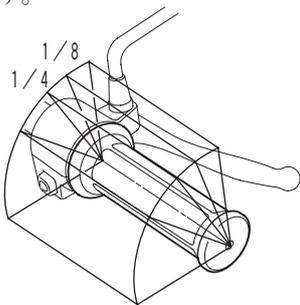
エンジンがかかったらすぐに、スタートスイッチから手をはなしてください。



アドバイス

- エンジンが回転しているときスタートスイッチを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

- エンジンが暖まっていて3～4秒スタートスイッチを押しても、エンジンがかからない。このような場合は、スロットルグリップを $1/8$ ～ $1/4$ ほど回すとかかりやすくなります。



- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタートスイッチを普段より多目に使用してください。
- バッテリ上がりを防ぐため、スタートモータは連続して15秒以上回さないでください。15秒以上回してもエンジンが始動しなかったときは、10秒以上待つて再度スタートスイッチを押してください。

- ④エンジンが冷えているときは、エンジンがかかってからしばらくの間、そのまま暖機をしてください。

〈キックスタータペダルを使って始動する場合〉

②まで行った後、スロットルグリップを回さずに力強くキックします。

エンジンがかかったら、必ずキックスタータペダルをたたんでください。

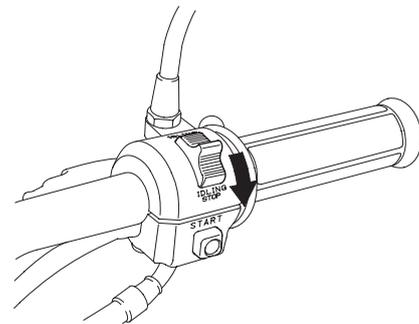


- エンジンが暖まっていて「3～4回キックしてもエンジンがかからない」このようなときはスロットルグリップを1/8～1/4ほど回すと、かかりやすくなります。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給しても、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さずに、キックペダルを普段より多目に使用してください。

アイドルストップ・システムを作動させるとき

〈GIORNO Crea DX〉

アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にします。

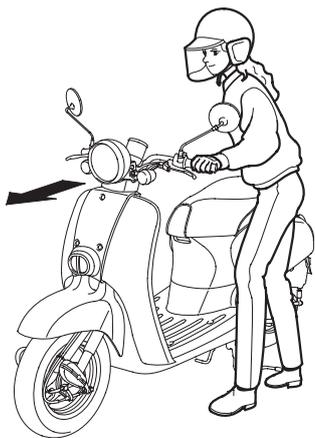


スタートするとき

①メインスタンドを外します。

- ブレーキロックレバーが外れないように注意しながら、車を前に押してメインスタンドを外してください。

エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。



②乗車します。

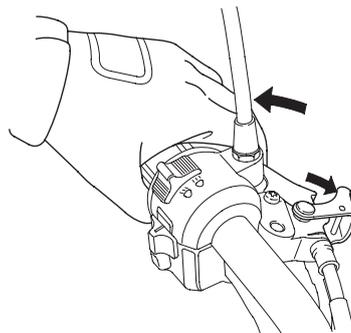
- 車の左側から乗車し、シートにしっかりと腰をおろします。このとき足を地面につけて、倒れないようにしてください。

乗車してスタートするまではブレーキロックレバーはかけたままにしておいてください。



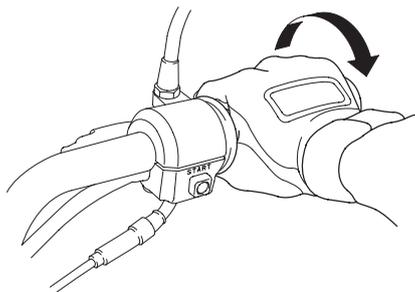
③左ブレーキレバーを強くにぎり、ブレーキロックレバーを外します。

ブレーキロックレバーを外すときは、スロットルグリップをまわさないでください。飛び出しなどの危険性があります。



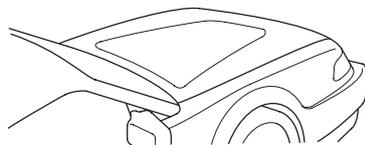
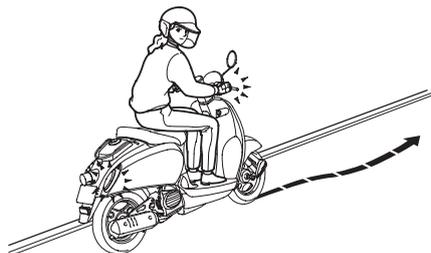
④左ブレーキレバーを放し、スロットルグリップをゆっくり回せば、車はゆっくりと走り出します。

スロットルグリップをいきなり手前にまわすと急加速して危険です。



正しい走りかた

スタート前に方向指示器スイッチで合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。



速度調整は、スロットルグリップで行います。

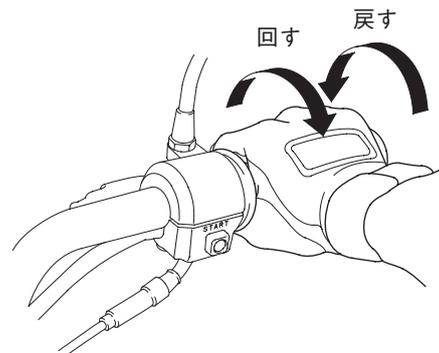
回す……速度が速くなる。

ゆっくり回しましょう。

登り坂ではスロットルグリップを徐々に回して力をつけましょう。

戻す……速度が遅くなる。

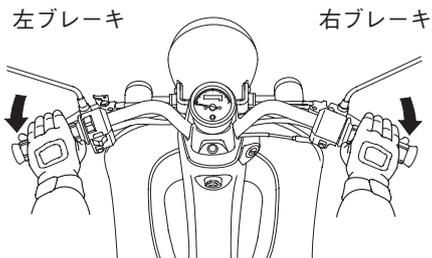
すばやく戻しましょう。



ブレーキは、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使しましょう。制動力を効果的に得るためには、右ブレーキレバーと左ブレーキレバーを同時に使う必要があります。

- スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- “はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。

走行中は、ブレーキロックレバーを操作しないでください。ブレーキレバーがロックされ危険です。



不必要な急ブレーキは避けましょう。急激なブレーキ操作は、タイヤをロックさせ車体の安定性を損なうおそれがあります。

- 雨天走行や路面が濡れている場合、タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。



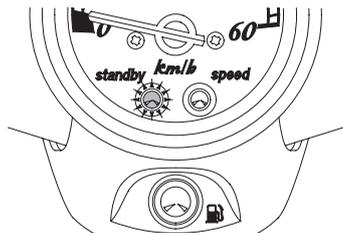
雨の日は、とくに慎重に走りましょう。

- 雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

アイドルストップモード切換えスイッチが
“IDLING STOP” のとき

〈GIORNO Crea DX〉

- 車が完全に停車し、スロットルグリップを全部戻した状態にすると、約3秒後にアイドルストップします。
- このとき、スタンバイ表示灯が点滅し、アイドルストップ状態であることを知らせます。



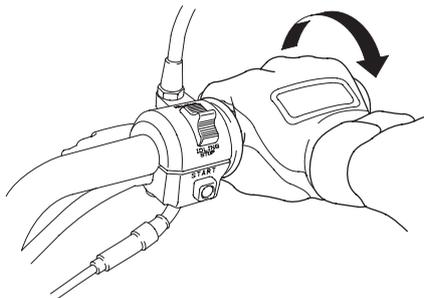
- アイドルストップしているときは、前照灯(ヘッドライト)が暗くなります。(消灯はしません)

🏍️ アドバイス

- アイドルストップ状態で長時間停止しているとバッテリー上がりの原因となります。

再スタートするとき

- スロットルグリップを回すとエンジンが再始動します。



- 着座していないとエンジンは再始動しません。
- エンジンが再始動すると前照灯(ヘッドライト)が明るくなります。

- エンジンが始動したことを確認してください。
- 坂道等でのスタートは車が動きだす感触を確認してからブレーキレバーを放してください。

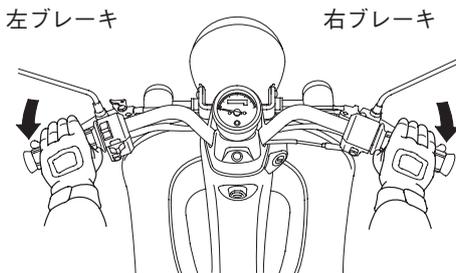


- アイドルストップ状態でアイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING”にするとシステムが解除します。スイッチを“IDLING STOP”にすると再び作動します。
- スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリー上がりが考えられます。
このようなときは、キックスタータペダルでエンジンを始動し(29 ページ参照)アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING”にして走行してください。

止まりかた

①止まる地点が近づいたら、

- 早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。
- スロットルグリップを戻して、早めに左・右のブレーキレバーを引きブレーキをかけましょう。
制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。

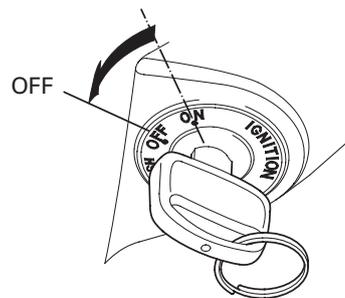


②完全に車が止まったら、

方向指示器スイッチを戻し、メインスイッチのキーを“OFF”の位置にします。

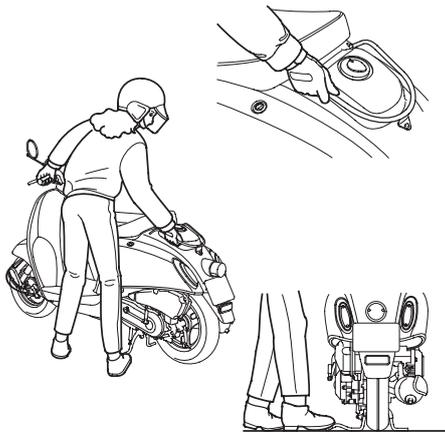
走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。

メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。



③左側において、平らな場所でメインスタンドを立てましょう。

- 交通のじゃまにならない平坦で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てましょう。不安定な場所では車が倒れることがあります。
- 左手でハンドルをまっすぐにして、右手でリヤグリップをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立てましょう。



④盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチのキーを抜いておきましょう。(15ページ参照)
チェーンロック等のご使用もおすすめしません。

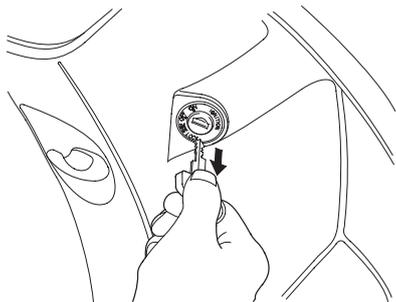
交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

慣らし運転を行きましょう。

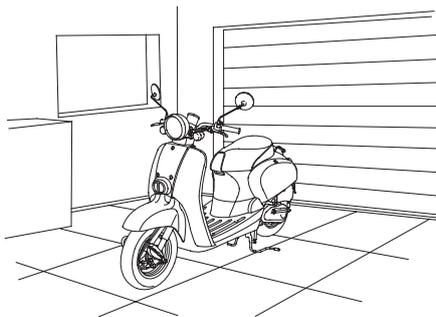
- 適切な慣らし運転を行うと、その後のお車の性能を良い状態に保つことができます。この車は乗り初めてから100 kmを走行するまでは急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

メンテナンスを安全に行うために

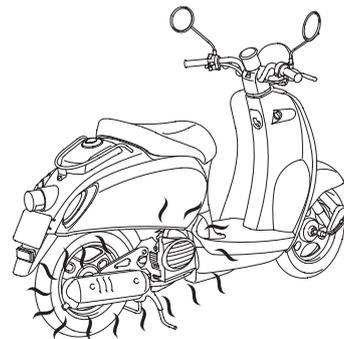
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。



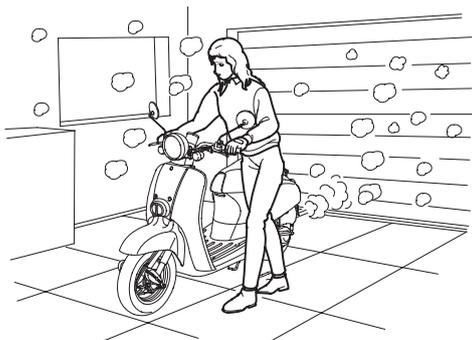
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



- エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



- メンテナンスに工具を必要とするときは、適切な工具を使用してください。

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、道路運送車両法に準じて1日1回の日常点検と6か月、12か月毎の定期点検整備を設けてあります。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。



警告

点検整備の方法を正しく行わないことや、不適當な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- 点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- 異状箇所は乗車前に修理してください。

各点検、メンテナンス等については、以下のページをご覧ください。

1か月目点検について	39
交換部品について	39
日常点検	40
メンテナンス部品配置図	41
定期点検	42
6か月点検項目	43
簡単なメンテナンス	44
ブレーキ	44
タイヤ	46
エンジンオイル	48
冷却水	50
ファイナルリダクション	52
バッテリー	53
ヒューズ	55
エアクリーナ	56
ケーブル類のラバーブーツ	57
ブリーザドレン	57

1 か月目点検について

新車から1 か月目(または、1,000 km時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取扱いたします。

お買いあげのHonda販売店で行ってください。

他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。

また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。

詳細については、別冊「メンテナンスノート」の 14 ページをご覧ください。

交換部品について

点検整備の結果、部品の交換が必要となった場合は、あなたのお車に最適な“Honda純正部品”をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。

お求めは、Honda販売店にご相談ください。

純正部品には、次のマークがついています。

純正部品マーク

HONDA

GENUINE PARTS
Honda Motor Co., Ltd.
Made In Japan

日常点検

日常点検は、お車を使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。

安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

この車に適用される点検項目は、右記「日常点検項目」です。

下線のついている項目については、「簡単なメンテナンス」に説明があります。44 ページ以後を参照してください。

また、点検項目の部位を次ページの「メンテナンス部品配置図」で示します。参照してください。

点検方法・要領は、別冊「メンテナンスノート」の 20 ページ以後をご覧ください。

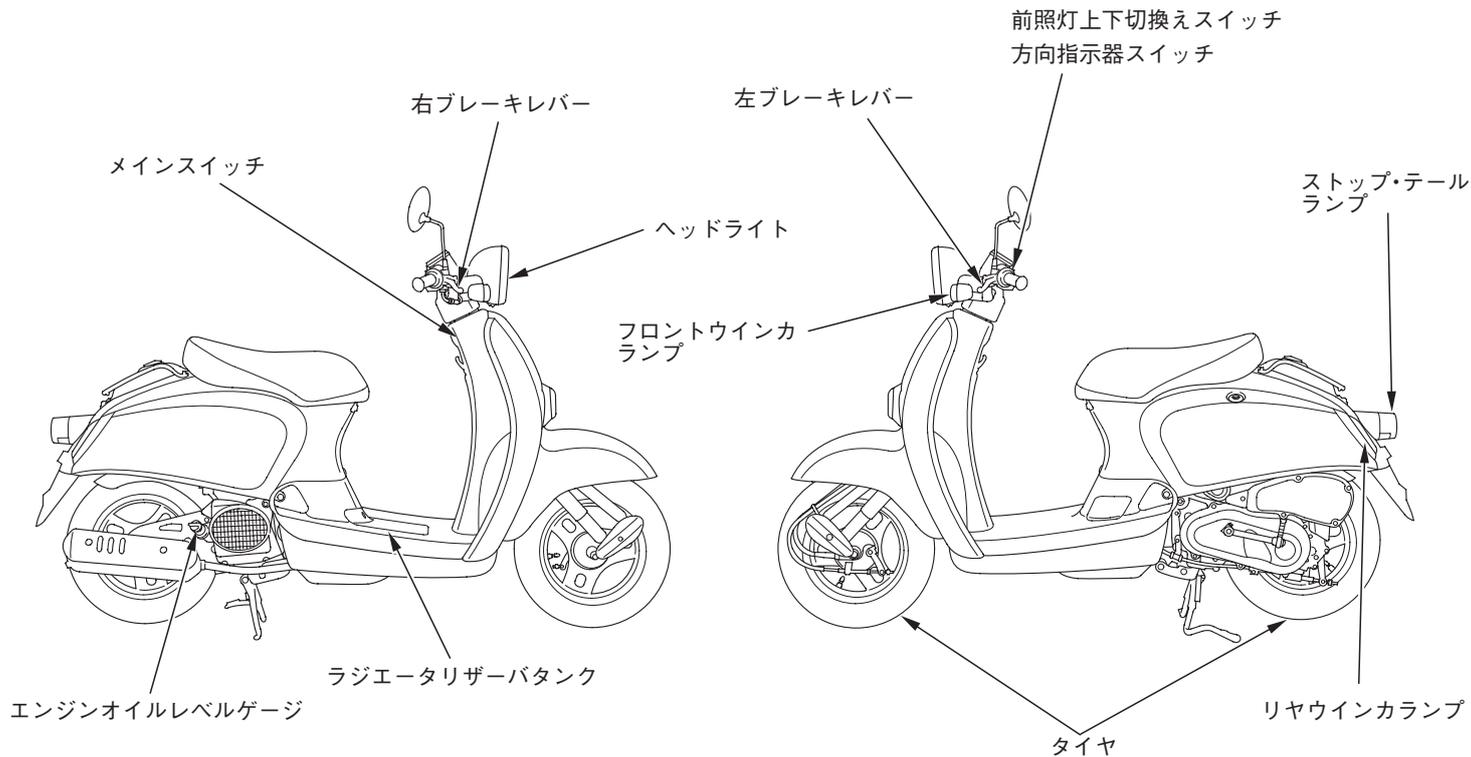
日常点検項目

- ブレーキ
 - ・ レバーの遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- タイヤ
 - ・ 空気圧
 - ・ 亀裂、損傷
 - ・ 異状な摩耗
 - ・ 溝の深さ(※)
- エンジン
 - ・ 冷却水の量(※)
 - ・ エンジンオイルの量(※)
(4サイクル車)
 - ・ かかり具合、異音(※)
低速、加速の状態(※)
- 灯火装置及び方向指示器
- 運行において異状が認められた箇所

(※)印の点検は、お車の走行距離、運転時の状態等から判断した適切な時期に行う項目です。

メンテナンス部品配置図

点検の方法・要領は、取扱説明書の「簡単なメンテナンス」および別冊「メンテナンスノート」の 20 ページ以後をご覧ください。



定期点検

定期点検

定期点検は、道路運送車両法に準じて設けられた6か月、12か月ごとの点検と、使い始めてから1か月目(または、1,000 km時)に行う点検があります。

また、これらの点検項目のほかにHondaが推奨する点検整備項目もあります。

安全快適にお車をご使用いただくために、点検整備を必ず実施してください。

点検整備の実施は、お客様の責任です。これは、ご自身で行う場合も、他に依頼する場合も同様です。

- ご自身で実施できない場合は、Honda販売店にご相談ください。
- ご自身で実施する場合は、安全のためご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、Honda販売店にご相談ください。

点検整備のデータは、67 ページのサービスデータを参照してください。

点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

6か月点検項目は、次ページにあります。

点検内容等、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“定期点検の解説”(23 ページ)をご覧ください。

6 か月点検項目

点検内容は、別冊「メンテナンスノート」の 23 ページをご覧ください。

- 点火装置
 - ・ スパークプラグの状態
- エンジン本体
 - ・ 排気ガスの状態
- 潤滑装置
 - ・ エンジンオイルの漏れ
- クラッチ
 - ・ クラッチの作用
- トランスミッション
 - ・ オイルの漏れ、量
- ブレーキペダル及び
ブレーキレバー
 - ・ 遊び
 - ・ ブレーキのきき具合
- ブレーキドラム及び
ブレーキシュー
 - ・ ドラムとライニングのすき間
- ホイール
 - ・ タイヤの状態
 - ・ ホイールのボルト、ナットの緩み

Honda推奨 6 か月点検整備項目

点検整備の内容は、57 ページを参照してください。

- ブローバイガス還元装置
 - ・ ブリーザドレンの清掃

簡単なメンテナンス

ここでは、通常行われることが多い簡単なメンテナンス(点検整備)について説明しています。

ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で、適切な工具を使用し、メンテナンスを行ってください。

安全のため、技量や作業に必要な工具をお持ちでない場合は、Honda販売店にご相談ください。

ブレーキ

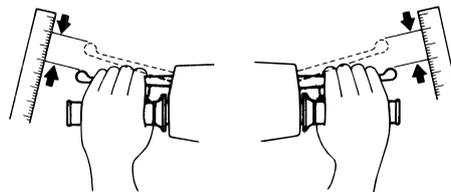
《ブレーキレバーの遊びの点検》

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあることをスケールなどで確認します。

右ブレーキレバーの遊び：10-20 mm

左ブレーキレバーの遊び：10-20 mm

規定の範囲を越えている場合は調整してください。



調整のしかた

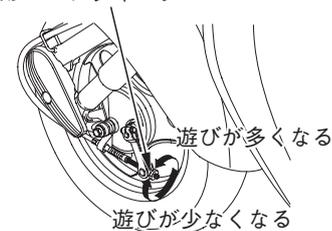
ブレーキレバーの遊びは

1. 前輪側(右ブレーキレバー)
 2. 後輪側(左ブレーキレバー)
- の順番で調整します。

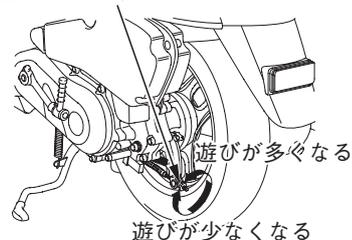
アジャスタを半回転ずつ回し、遊びを調整します。

調整後は、ブレーキレバーの遊びを確認してください。

1. 前輪側 アジャスタ

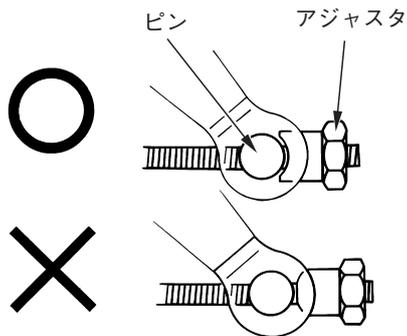


2. 後輪側 アジャスタ



知識

- アジャスタの凹部は、半回転ごとにピンの凸部に一致します。遊びの調整後、これらが一致していることを確認してください。



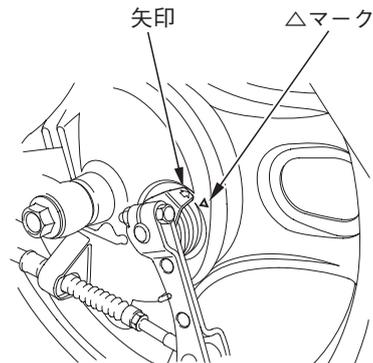
《ブレーキシューの摩耗の点検》

前輪は右ブレーキレバー、後輪は左ブレーキレバーをいっぱい引いて、ブレーキインジケータの矢印(前輪)または△穴(後輪)とブレーキパネルの△マークが一致しないことを確認します。

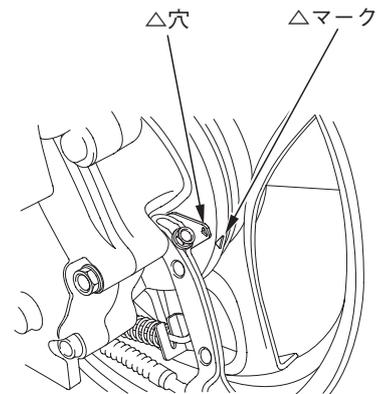
一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですので交換してください。

ブレーキシューの交換は、Honda販売店にご相談ください。

〈前輪〉



〈後輪〉



タイヤ

車を安全に運転するには、タイヤを良い状態に保つことが必要です。

常に適正な空気圧を保ってください。

また、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは、使用せず交換してください。

警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

《空気圧の調整》

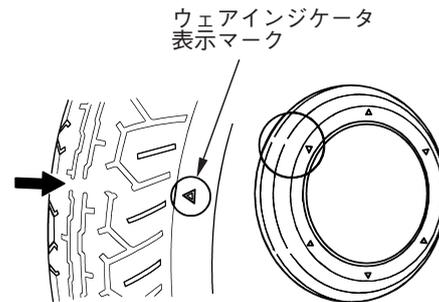
タイヤが冷えている状態で、エアゲージを使用し、適正な空気圧にします。

タイヤの空気圧

前 輪	125 kPa (1.25 kgf/cm ²)
後 輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)

《溝の深さの点検》

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(スリップサイン)により確認します。ウェアインジケータがあらわれたときは、ただちに交換してください。



《交換タイヤの選択について》

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、Honda販売店にご相談ください。

⚠ 警告

指定以外のタイヤを取付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。

そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取付けてください。

指定タイヤ

前 輪	サイズ	90/90-10 50J	
	タイプ	IRC MB65	チューブレス
後 輪	サイズ	90/90-10 50J	
	タイプ	IRC MB65	チューブレス

エンジンオイル

エンジン停止直後のメンテナンスは、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドにご注意ください。

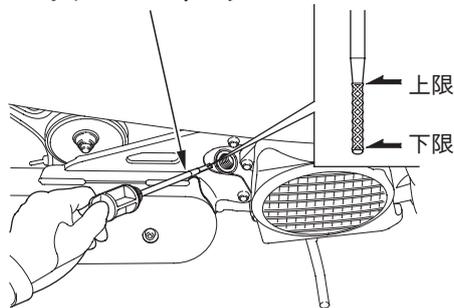
〈GIORNO Crea DX〉

エンジンオイルの点検はアイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING”にして行ってください。

《オイル量の点検》

1. 平坦地でエンジンを3～5分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージについたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。
5. オイルがオイルレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
オイル量が下限に近かったら、上限まで補給します。
6. エンジンオイルの補給は、次ページ参照。
オイルレベルゲージを確実に取付けます。

オイルレベルゲージ



《オイルの補給》

推奨オイル

Honda純正オイル(4サイクル二輪車用)

	ウルトラG 1
J A S O T 903規格	M A
S A E 規格	10W-30
A P I 分類	S J 級

相当品をご使用の場合

オイル容器の表示を確認し、下記のすべての規格を満たしているオイルをお選びください。

JASO T 903 規格(二輪車用オイル規格):MA
SAE規格:外気温に応じ次ページの表から選択

API分類:SG、SH、SJ 級相当

相当品がすべての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

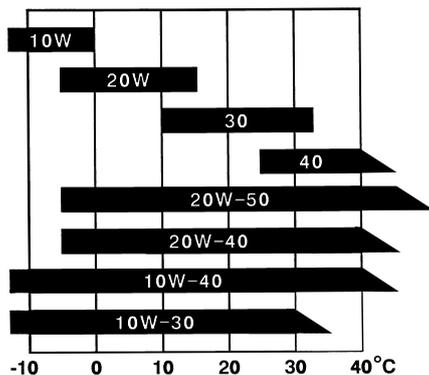
🏍️ アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

外気温と粘度との関係

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

(SAE 規格)



(外気温)

交換時期

初回:1,000 km

以後:6,000 kmごと

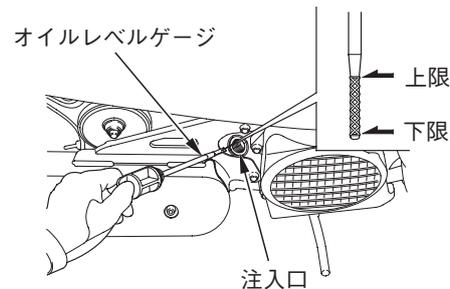
エンジンオイルの交換は、Honda販売店にご相談ください。

補給のしかた

1. 平坦地でエンジンを2～3分間アイドリングさせます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルレベルゲージを外します。
3. 布等でオイルレベルゲージに付いたオイルを拭きます。
4. 車体を垂直にして、オイルレベルゲージでオイル量を確認しながら、注入口よりオイルを上限まで補給します。

補給するときは、オイル注入口からごみなどが入らないようにしてください。また、オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。

5. オイルレベルゲージを確実に取付けます。



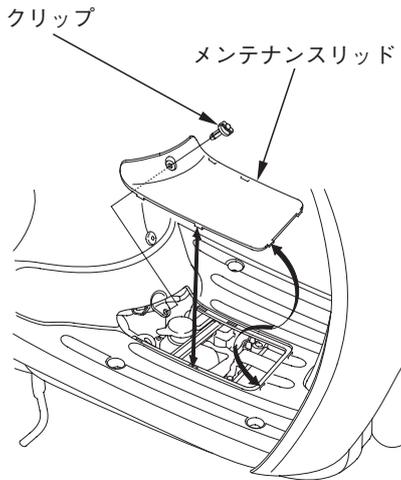
🏍️ アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

冷却水

《冷却水量の点検》

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. クリップを取外します。
(クリップの取外し、取付けかたは 58 ページ参照)
3. メンテナンスリッドを取外します。

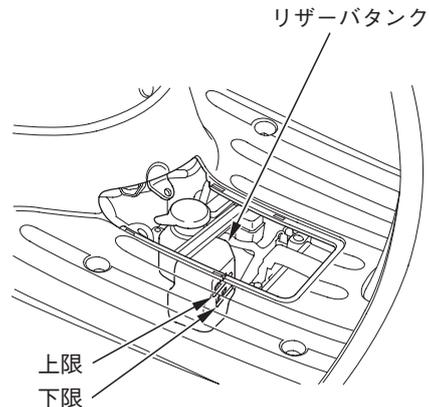


4. 冷却水がリザーバタンクの上限と下限の間にあることを確認します。
水量が下限に近かったら、上限まで補給します。
冷却水の補給は、次ページを参照してください。

冷却水の減り具合が著しいときは、ラジエータ本体、ホースなどからの水漏れが考えられます。

また、リザーバタンクに冷却水がない場合も異常です。

Honda販売店にご相談ください。



《冷却水の補充》

補充はリザーバタンクのキャップから行い、通常はラジエータキャップを外さないでください。

警告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエータキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエータが冷えていることを確認してください。

アドバイス

- 指定以外のラジエータ液や不適当な水を使うとさびなどの原因となります。

冷却水指定液

Honda純正ウルトララジエータ液

指定液の濃度を上水道(軟水)で下記濃度に薄めてお使いください。

指定濃度:30%(寒冷地は50%)

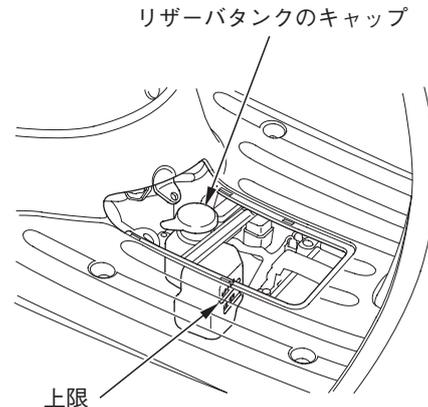
濃度による不凍温度は、

30%の場合 -16°C まで

50%の場合 -37°C まで

補充のしかた

1. メンテナンスリッドを取外します。
(50ページ参照)
2. リザーバタンクのキャップを外します。
3. 平坦地で車体を垂直にし、リザーバタンクの上限まで冷却水を補充します。
4. キャップ、メンテナンスリッドを取付けます。



ファイナルリダクション

《オイル量の点検》

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外します。
3. オイルがボルト穴の下端まであることを油面の位置で確認します。
油面が低い場合は、ボルト穴からオイルが出てくるまでオイルを補給してください。

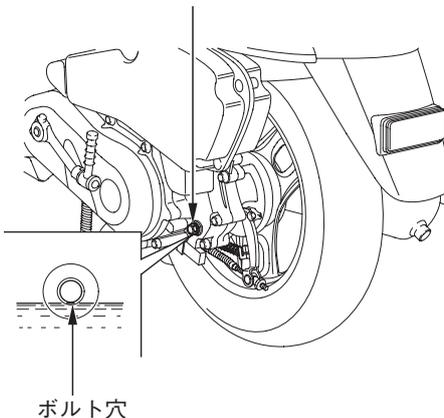
補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全に拭き取ってください。

4. オイルチェックボルトを確実に取付ます。

🏍️ アドバイス

- オイルは規定量より多くても少なくても、悪影響を与えます。

オイルチェックボルト



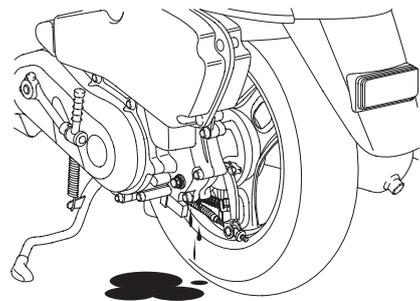
推奨オイル
ハイポイドギヤオイル #90

🏍️ アドバイス

- 銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。また、低品質オイルは使用しないでください。オイルの変質などにより、この車本来の性能が発揮できないばかりでなく、エンジンの故障や損傷の原因となります。

《オイル漏れの点検》

ファイナルリダクションケースなどから、オイルが漏れていないことを確認します。



バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。

バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合のみ清掃してください。

バッテリーの取扱い

- バッテリー取扱い時には、ショートによる火花やたばこ等の火気に十分注意してください。
- バッテリー液は、希硫酸ですので目や皮膚に付着しないよう十分注意してください。

アドバイス

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。バッテリーの充電時も液口キャップを取外す必要はありません。

警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、目や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

- バッテリーの近くで作業する時は、保護メガネと保護服を着用してください。
- バッテリーを、子供の手の届く所に置かないでください。

万一の場合の応急処置

- 電解液が目に着したとき
ーコップなどに入れた水で、15分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、目を痛めるおそれがあります。
 - 電解液が皮膚に着したとき
ー電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。
 - 電解液を飲み込んだとき
ー水、または牛乳を飲んでください。
- 応急処置後、直ちに医師の診察を受けてください。

《バッテリーターミナル部の清掃》

清掃のしかた

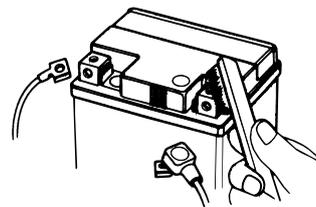
バッテリーを取外します。(次ページ参照)

- ターミナル部が腐食して白い粉が付いている場合は、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーを取付けます。

その後、ターミナル部にグリースを薄く塗ります。

バッテリーを交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。

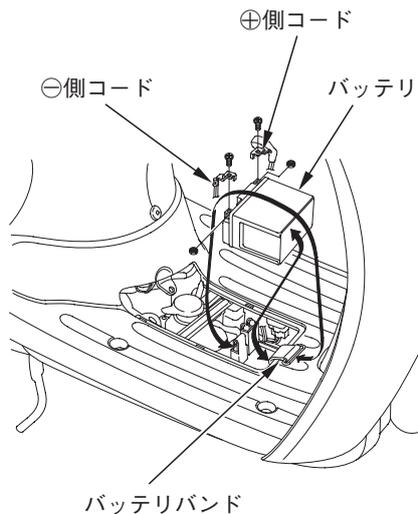


《バッテリーの取付け取外し》

取外し

1. メインスイッチをOFFにします。
2. メンテナンスリッドを取外します。
(50 ページ参照)

3. ⊖側コードの端子を外し、⊖側コードを取外します。
4. ⊕側コードの端子を外し、⊕側コードを取外します。
5. バッテリーバンドを取外します。
6. バッテリーを取出します。



取付け

取付けは、取外しの逆手順で行います。

バッテリーコードは、必ず先に⊕側より取付けてください。

また、ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。

ヒューズ

《ヒューズの点検、交換》

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないことを確認します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

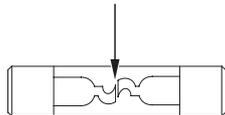
指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合はヒューズの劣化以外の原因が考えられます。原因を調べて、直してから新品と交換しましょう。

🏍️ アドバイス

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「Honda アクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

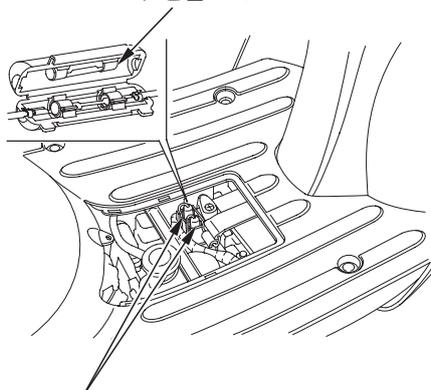
ヒューズ切れ



取外し

1. メンテナンスリッドを取外します。
(50 ページ参照)
2. ヒューズホルダを取出します。

スペアヒューズ



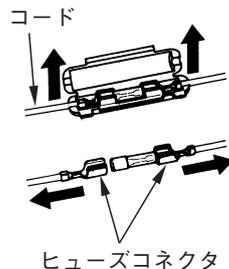
ヒューズホルダ

3. ヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタをスライドさせます。
4. ヒューズコネクタを広げないように注意して取外します。

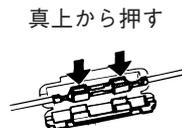
取付け

1. ヒューズをヒューズコネクタに取付け、ヒューズが容易に横方向に動かないことを確認します。
2. ヒューズの両端を真上から押し込んでヒューズホルダに組付けます。
3. ヒューズホルダを閉じ、格納します。
4. メンテナンスリッドを取付けます。

〈取外し〉



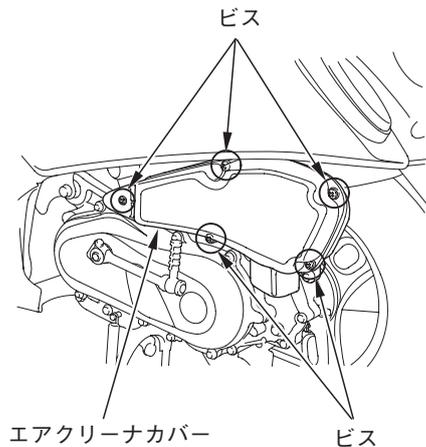
〈取付け〉



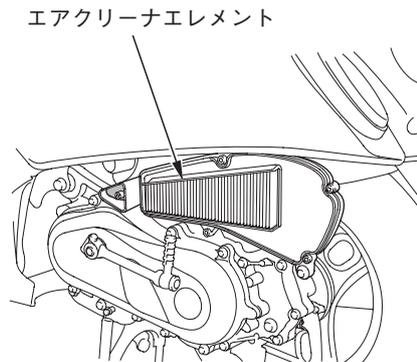
エアクリーナ

《エアクリーナエレメントの交換》

1. ビスを外し、エアクリーナカバーを取外します。



2. エアクリーナエレメントを取外します。取外した後ケース内にゴミやほこり等がないことを確認し、ある場合は取除きます。



3. 取外しの逆手順で、新品のエアクリーナエレメントを取付けます。

🏍️ アドバイス

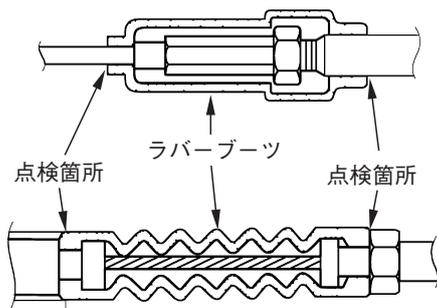
- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

ケーブル類のラバーブーツ

《ラバーブーツの点検》

ケーブル類にはインナーケーブル保護のため、ラバーブーツが取り付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。

洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭き取るようにしてください。

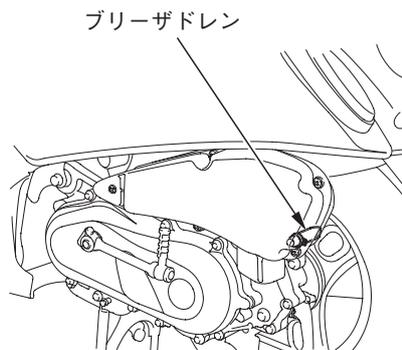


ブリーザドレン

《ブリーザドレンの清掃》

(Honda推奨 6 か月点検整備項目)

1. ブリーザドレンの下に受け皿等を置きます。
2. ブリーザドレンを外し、ブリーザドレン内の堆積物を取除きます。
3. ブリーザドレンを確実に取付けます。



《クリップの取外し、取付けた》

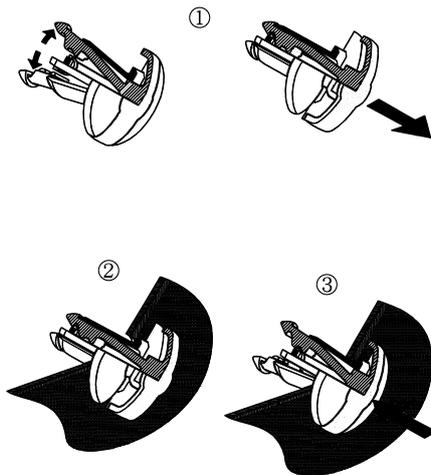
取外し

- ①中央部のピンを押し込んでロックを解除します。
- ②クリップを引き抜きます。



取付け

- ①ピンの先端を軽く開きながら、ピンを押し戻して取付け状態にします。
- ②クリップを穴に差し込みます。
- ③ピンを軽く押してロックします。



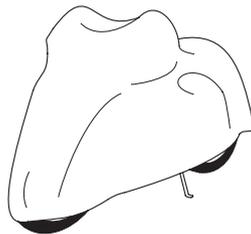
- 洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。
- 洗車直後などにヘッドライト内部がくもることがあります。この場合、ヘッドライトを点灯することでくもりは徐々に消えていきます。ヘッドライトの点灯は、エンジンをかけながら行ってください。

保管のしかた

お車はできるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外に保管する場合はボディカバーをかけてください。

知 識

- ボディカバーはエンジンやマフラが冷えてからかけてください。



長期間、ご使用にならない場合は次の項目をお守りください。

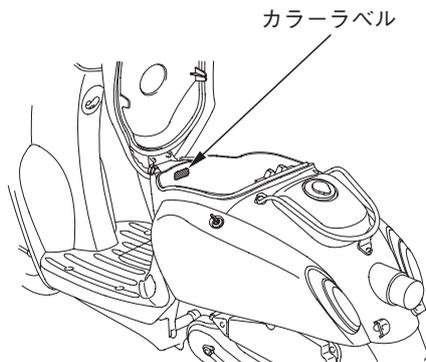
- 保管する前に各部にワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーは自己放電と電気漏れを少なくするため車から取外し、完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は⊖側ターミナルを外してください。

地球の環境を守るため、使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。

また、将来お車を廃車される場合も同様です。これらのものを廃棄する場合は、Honda販売店にご相談ください。

色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。

- カラーラベルは、トランク内に貼ってあります。



マフラの後部には、Honda純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。

“HONDA”マーク

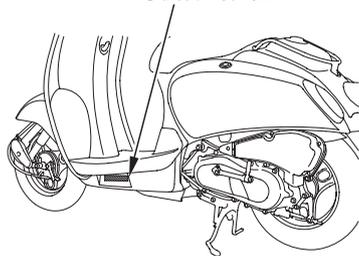


HONDA

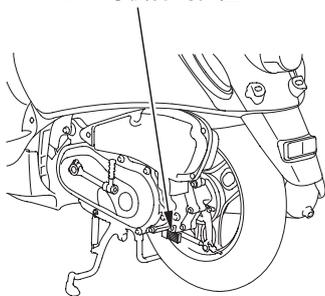
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



《オーバーヒートの処置手順》

1. メインスイッチでエンジンを止めます。
ラジエタカバーに異物等の付着がないか、確認します。異物等がある場合は取り除いてください。
メインスイッチがOFFの状態ではエンジンが冷えるのを待ちます。
2. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水量を確認します。(50 ページ参照)
冷却水が不足していたら、リザーバタンクに補給してください。(51 ページ参照)
3. ラジエタホースなどを点検し、水漏れがないか確認します。
 - 水漏れがある場合：
エンジンをかけず、Honda販売店にご相談ください。
 - 水漏れない場合：
走行可能です。ただし、異常が再発するときは、Honda販売店にご相談ください。
4. 異常が再発しない場合でも、なるべく早くHonda販売店で点検を受けてください。

ご使用中に万一故障した場合は、お買いあげ販売店もしくは最寄りのHonda販売店へお気軽にお申しつけください。

エンジンがかからない。
走行中に止まってしまう。



こんなときは、Honda販売店に持ち込む前に、次のことを調べてみましょう。

- ガソリンは入っていますか。
燃料残量警告灯が点灯していたらガソリンを補給してください。
- エンジンのかけかたは正しいですか。
(エンジンのかけかたは、27 ページ参照)

故障と思われる前に

こんなときは、故障ではありません。お買い上げのHonda販売店に持ち込む前に次のことを調べてみましょう。

処置をしても症状が改善されない場合は、お買い上げのHonda販売店へご相談ください。

症 状	確認してください	処 置
アイドルストップ(エンジンが停止)しない。	アイドルストップモード切換えスイッチは“IDLING STOP”になっていますか。	アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にしてください。
	エンジンは冷えていませんか。	エンジンが冷えている状態ではアイドルストップ・システムは作動しません。エンジンの暖機を行ってください。
	車は停止していますか。	速度が 0 km/h にならないとアイドルストップ・システムは作動しません。完全に停止してください。
	スロットルグリップを回してはいませんか。	スロットルグリップを回しているとアイドルストップ・システムは作動しません。スロットルグリップを全部戻してください。
	一度、走行しましたか。	エンジンを始動したあと、走行(車速 10 km/h 以上)しないとアイドルストップ・システムは作動しません。一度、走行してください。

症 状	確認してください	処 置
アイドルストップ(エンジンが停止)しない。	シートに正しい姿勢で座っていますか。	シートに荷重がかかっていないとアイドルストップ・システムが作動しない構造になっています。正しい姿勢で座ってください。
	トランク内に荷物等を入れ過ぎではありませんか。	トランク内に荷物等を入れ過ぎるとシートが押し上げられ、アイドルストップ・システムが作動しない場合があります。このようなときは荷物等を取り出してください。

アイドルストップ・システムが作動しないとき (GIORNO Crea DX)

症 状	確認してください	処 置
スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない。	スタンバイ表示灯は点滅していますか。消灯しているときは下記の項目を確認してください。	スタンバイ表示灯が消灯しているときは下記の処置を行ってください。
	シートに正しい姿勢で座っていますか。	シートに荷重がかかっているとアイドルストップ・システムが作動しない構造になっています。また、約3分以上シートに荷重がかかっているとシステムは解除します。正しい姿勢で座ってください。
	トランク内に荷物等を入れ過ぎてはいませんか。	トランク内に荷物等を入れ過ぎるとシートが押し上げられ、アイドルストップ・システムが作動しない場合があります。このようなときは荷物等を取り出してください。
	アイドルストップモード切換えスイッチが“IDLING”になっていませんか。	アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING STOP”にしてください。

症 状	確認してください	処 置
スタンバイ表示灯は点滅しているがスロットルグリップを回してもエンジンが始動しない。	—————	スロットルグリップを回してもエンジンが始動しない場合はバッテリー上がりが考えられます。このようなときは、キックスタートペダルでエンジンを始動し(29 ページ参照)アイドルストップモード切換えスイッチを“IDLING”にして走行してください。

主要諸元

		GIORNO Crea / GIORNO Crea DX		
型	式	BA-AF54		
長	さ	1,685 mm		
	幅	630 mm		
高	さ	1,005 mm		
軸	距	1,190 mm		
原動機種類 / 総排気量		ガソリン・4サイクル / 0.049 ℓ		
車 両 重 量		83 kg		
乗 車 定 員		1 人		
タイヤ サイズ	前 輪	90/90-10 50J		
	後 輪	90/90-10 50J		
最低地上高		115 mm		
燃料消費率		71.3 km / ℓ (車速 30 km/h)		
最小回転半径		1.8 m		
圧 縮 比		12.0		
最 高 出 力		3.5 kW(4.8 PS) / 8,000 rpm		
燃料タンク容量		5.0 ℓ		
点火形式		C D I 式 バッテリ点火		
点火時期		BTDC15° / 2,000rpm		
アイドリング回転数		2,000 rpm		
点火プラグ	N G K	CR7EH-9	CR8EH-9	CR9EH-9
	D E N S O	U22FER9	U24FER9	U27FER9
バ ッ テ リ		12V-6Ah		
ク ラ ッ チ		乾式多板シュー式		

サービスデータ

		GIORNO Crea / GIORNO Crea DX
右ブレーキレバーの遊び		10–20 mm
左ブレーキレバーの遊び		10–20 mm
タイヤ空気圧	前 輪	125 kPa (1.25 kgf/cm ²)
	後 輪	200 kPa (2.00 kgf/cm ²)
エンジンオイルの量	全容量	0.7 ℓ
	オイル交換時	0.6 ℓ
ファイナルギアオイルの量		0.1 ℓ
ヒューズ		15A,10A
点火プラグの点火すきま		0.8–0.9 mm
エアクリーナエレメントの形式		ろ紙式(ビスカスタイプ)
電球(バルブ)	ヘッドライト	12V–40/40W
	テール・ストップランプ	12V–5/18W
	方向指示器(ウインカ)ランプ	12V–10W

ア	アイドルストップ・システム〈GIORNO Crea DX〉	25	ク	車のお手入れ	59
	アイドルストップ・システムが作動しないとき		ケ	計器類	13
	〈GIORNO Crea DX〉	62		警告灯	13
	アイドルストップモード切換えスイッチ			ケーブル類のラバーブーツの点検	57
	〈GIORNO Crea DX〉	16	コ	コンビニエンスフック	18
	安全運転のために	4	サ	サービスデータ	67
	安全に関する表示について	1	シ	シートロック	19
イ	色物部品をご注文のとき	60		主要諸元	66
ウ	運転する前に(安全運転のために)	4		書類入れ	21
エ	エアクリーナエレメントの交換	56	ス	水温表示灯	13
	エンジンオイルの量の点検	48		スイッチの使いかた	15
	エンジンオイルの補給	48		スタータスイッチ	16
	エンジンが始動しないとき	61		スタートするとき	30
	エンジンのかけかた	27		スタンバイ表示灯〈GIORNO Crea DX〉	14
オ	オドメータ ⇨ 積算距離計	13		スピードメータ ⇨ 速度計	13
	オーバーヒートしたとき	61	セ	積算距離計	13
カ	改造(安全運転のために)	9		前照灯上下切換えスイッチ	17
	各部の名称	10	ソ	装備の使いかた	18
	ガソリンの補給 ⇨ 燃料の補給	24		速度計	13
	簡単なメンテナンス	44		速度警告灯	13
キ	キックスタータペダル	29			

タ	タイヤの点検	46
	正しい運転操作	27
	正しい走りかた	31
チ	地球環境の保護について	60
	駐車(安全運転のために)	9
テ	定期点検	42
ト	止まりかた	34
	トランク	20
ニ	日常点検	40
	日常点検、定期点検、簡単なメンテナンス	38
	荷物(安全運転のために)	8
ネ	燃料残量警告灯	13
	燃料の補給	23
ノ	乗りかた(安全運転のために)	7
ハ	バッテリー	53
	ハンドルロック	18

ヒ	ヒューズ	55
	表示灯	13
フ	ファイナルリダクションの点検	52
	服装(安全運転のために)	6
	ブリーザドレン	57
	フレーム号機	61
	ブレーキの点検	44
	ブレーキロックレバー	22
ヘ	ヘッドライト上下切換えスイッチ	17
	ヘルメットホルダ	19
ホ	方向指示器スイッチ	17
	保管のしかた	59
	ホーンスイッチ	17
マ	マフラの純正マークについて	61
メ	メインスイッチ	15
	メインスタンドロック	21
	メータの見かた、使いかた	13
	メンテナンスを安全に行うために	36
レ	冷却水の量の点検	50
	冷却水の補給	51
	連動ブレーキシステム	15

— × 毛 —

— ヌ 毛 —

— × 毛 —

お問い合わせ・ご相談はHonda販売店もしくは全国共通フリーダイヤルで
下記のお客様相談センターがお受け致します。

フリーダイヤル

オーハローバイク
0 1 2 0 - 0 8 6 8 1 9

本田技研工業株式会社 お客様相談センター
受付時間 9:00~12:00 13:00~17:00
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

- 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。